

し じょうきん ご どの ご へん じ
 「四条金吾殿御返事」
 ぼんのうそく ぼ だい こと
 (煩惱即菩提の事)

ほ け きょう しんじん 通 たま
 法華経の信心をとおし給え。
 ひ 切 休 ひ
 火をきるに、やすみぬれば火を
 得 ごうじょう だいしんりき 出
 えず。強盛の大信力をいだし、
 ほ け しゅう し じょうきん ご し じょうきん ご
 「法華宗の四条金吾、四条金吾」
 かまくらじゅう じょう げ ばんにん ない し に
 と、鎌倉中の上下万人、乃至日
 ほんこく いっさいしじゅう くち 謳
 本国の一切衆生の口にうたわれ
 たま 悪 な なか
 給え。あしき名さえ流す。いわ
 んやよき名をや。いかにいわん
 ほ け きょう な
 や法華経ゆえの名をや。

(御書新版1522ページ・御書全集1117ページ)

通解

法華経の信心を貫き通しなさい。火
 をおこすのに、途中で休んでしまった
 なら、火を得ることはできない。

強盛の大信力を出して、「法華宗の
 四条金吾、四条金吾」と、鎌倉中の上
 下万人をはじめ、日本国の一切衆生の
 口にうたわれていきなさい。人は悪名
 でさえ流すものだ。まして、善き名を
 流すのは当然である。ましてや、法華
 経ゆえの名はいうまでもない。

 い の
 「強き祈りと地道な努力が勝利を開く」

よくわかる解説

みな
 皆さんこんにちは、レオです！ 御書を学んで、自
 身の生命を輝かせていこう☆

今回学ぶ「四条金吾殿御返事」(煩惱即菩提の事)は、
 1272年(文永9年)5月、日蓮大聖人が流罪地
 の佐渡で著され、鎌倉の門下の中心者の一人・四条
 金吾に送られたお手紙です。

大聖人が、命にも及ぶ佐渡流罪という大難に遭わ
 れる中、激しい迫害の手は門下にも及び、たくさん
 の弟子たちが信心をやめて退転していきました。本
 抄は、そんな中でも信心を貫き、佐渡にいる大聖人
 のもとを訪ねた金吾に対し、大聖人が感謝を込めて
 認められたと考えられます。

御文の中の「火をきる」とは、火をおこすこと。
 木と木をこすり合わせた摩擦熱によって火をおこす
 ためには、火がおこるまで作業を続けなければなり
 ません。これと同じように、何があっても地道に信
 心を貫き通す不退の信心を教えられています。また、
 大聖人は「強盛の大信力をいだし」とも仰せです。

“この信心で、どんな困難も必ず乗り越えてみせる、と、
 強い心で信心に励む時、その祈りがかなうことを教え
 てくださいます。

ある未来部メンバーは、進路の選択で悩み、自分と
 周囲を比べて自信をなくしていました。そんな時、座
 談会でこの御文を学び、“諦めずに最後まで挑戦し続
 けよう、と決意。勤行・唱題とともに、勉強の具体的
 な目標を定めて挑戦を開始しました。努力を重ねる中
 で、不安に打ち勝つ心が生まれました。使命の道を切
 り開くことができた彼女は、「日々の祈りと挑戦を通
 して、自信が持てるようになった」と、朗らかに語っ
 ています。

池田先生はつづっています。

“断じてかなえてみせる、と『誓い』を込めて祈り、
 今できる最高の努力を積み重ねていくのです。この
 誓願の祈りと努力にこそ、青春勝利の直道がありま
 す”

強き祈りと地道な努力で、自分にしか咲かせられな
 い青春の日々を送っていこう！